

【地域の顔】～COC 事業評価 住民座談会からの報告～

COC事業3年目にあたる今年は、事業全体の中間評価の年にあたります。このたびコラボ教育を実施している須磨区竜が台、菅の台地区の住民さん4名にお集まりいただき、事業に参加してのご意見を伺いましたので、本誌で紹介いたします。

【本学学生が参加することについて】

「住民は普段家庭で、じっくり話を聞いてくれる人がいないので、若い人が来て話を聞いてもらえる、自分を知ってもらえるので、自分の存在感や価値観を認めてくれる人がいると感ずることができる」「学生は病院などの施設で、経験を積むものと思っていたので、地域の場に来て学んでいることに驚いた」

【COC事業による効果について】

「同じ団地の男性の方が参加されていて、普段は挨拶だけが、健康測定で会ったら測定結果をお互いに話すようになった」「男性はなかなか知らない人と会話をすることができない。でも同じ団地からきているというのを知ることによって安心し、知らない人とでも会話できる機会になっている」「健康測定で顔見知りができ、その人から地域の活動(クラブ)の誘いを受け、趣味があれば地域にあるクラブに入るきっかけになっている」

2年生が行なう基礎看護技術演習Ⅲでは、学生は初対面の方への健康測定、インタビューを行なうのに緊張感を持って参加している中、住民さんからは声かけの仕方や、将来看護師となった時に患者さんの声に耳を傾ける大切さを教えていただいていることも、今回の座談会でお話いただきました。コラボ教育が学生の学びの場としてだけでなく、コミュニティの育成支援として貢献できることを期待したいと思います。

(報告者 相原洋子)

お詫びと訂正

前号(2015年秋号)の「地域の顔」の執筆者のお名前を間違えて記載していました。正しくは「金田洋士さん」です。お詫びと訂正をさせていただきます。

【地域づくり・健康づくり

「大学生と須磨区職員の座談会」～須磨区の現状と今後について語る～

須磨区まちづくり推進部まちづくり課 事業推進係長 鎌田智江さん
 『須磨区』のイメージは? 2015年7月に開催した「大学生と須磨区職員の座談会」で学生のみなさんに質問をしました。人口減少、少子超高齢化が進む須磨区にとって、若い世代の方が「須磨区」にどのようなイメージを持っているのか非常に興味深く聞きました。やはり、「須磨海岸」や「歴史のまち」といった回答が多くありましたが、「魅力はあるが知られていない」という回答もありました。「若い世代を須磨へ呼び込む」ということが人口減少等の課題をかかえる須磨区にとっては非常に重要なことです。座談会で学生のみなさんの発言を聞いていると「須磨の魅力が若い世代に発信できていない」ということがわかりました。

また、「住みたいと思うまちは?」という質問には、「保育施設が充実」「公共交通機関が便利」「商業施設が充実」「地域コミュニティがしっかりしている」という回答がありました。生活の利便性とともな「地域コミュニティ」という視点も学生が持っているということに非常に嬉しく感じました。

須磨区まちづくり課では、地域のみなさんと協働でまちづくりに取り組んでいます。地域活動においては、団体構成員の高齢化など活動を継続していくことが困難になってきているという課題があります。若い世代の方々にも自分が住むまちに愛着を感じ、そして様々な世代の人が安心して暮らせるよう地域コミュニティの一員としてまちづくりに興味を持っていただきたいと座談会を通じてより強く感じました。

なお、座談会には、神戸市看護大学からは1回生7名に参加いただき、積極的に発言していただきました。ありがとうございました。

※座談会の報告書は須磨区ホームページに掲載しています。

<http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/suma/keikaku/zadankai2015.html>



住民座談会の様子

COCサテライト室(須磨区竜が台)において



「大学生と須磨区職員の座談会」の様子